

(新)地球温暖化による公共用水域の水質への影響調査

50百万円(0百万円)

水・大気環境局水環境課

1. 事業の概要

地球温暖化により、水温の上昇等による植物プランクトンの増加や湖内の水温差によって生じる水循環の減少から貧酸素化が生じるなど、湖沼や河川等の公共用水域の水質の悪化が引き起こされることが研究者等によって指摘されている。例えば、琵琶湖では、今年、深層の溶存酸素量が半分程度になったことが観測されるなど、1979年の調査開始以来初めての事態が発生しており、今後どれほど深刻な問題が起きるかの予測がつかない状態である。また、IPCC第4次報告第2作業部会の報告において、多くの地域で湖沼や河川の水温上昇に伴い、水質へ影響が生じるだろうとされている。

しかし、地球温暖化によって引き起こされる水質への影響については調査及び研究事例が少なく、現在あまり明らかにされていない。

このため、全国の湖沼のうち、今後、地球温暖化によって水質の悪化が引き起こされることが懸念される公共用水域について、水温、降水量、溶存酸素量、COD等のデータについて調査分析し、水質への影響を把握・将来予測する。また、温暖化により看過できない水質の悪化が生じた場合の実施可能な適応策についても検討を行う。

2. 事業計画

調査項目	H20	H21	H22
・地球温暖化による公共用水域の水質への影響に係る研究調査の情報収集・整理 ・同影響に係る調査分析 ・調査及び対策検討結果報告書作成	→		
			→
			→

3. 施策の効果

地球温暖化による公共用水域の水質への影響について実態を把握し、実行可能な適応策の検討を行うことにより、公共用水域の水質保全を図る。

4. 備考

調査費 50,023千円

(内訳)地球温暖化による公共用水域の水質への影響調査 50,023千円